

## 第5回 HOPE ミーティング報告書

・所属(研究科・専攻・学年)

理工学研究科 有機・高分子物質専攻 博士後期課程3年

・プログラム名

JSPS HOPE ミーティング

・プログラム期間

2013年2月26日(火)~3月2日(土)

・感想

研究への想いを新たに：第5回 HOPE ミーティングに参加して

2013年2月26日から3月2日に開催された、第5回 HOPE ミーティングに参加しました。アジア太平洋地区の若手研究者が、ノーベル賞受賞者らとのディスカッションなどを通じて研究者としての研鑽を行う1週間のプログラムです。中国・韓国からイスラエル・エジプト・南アフリカまで17か国から約100名が参加した、非常に国際色豊かなミーティングでした。今年の対象分野は生命科学でしたが、生命科学といっても、医療・植物・分類学など、非常に幅広い分野の方が参加されていました。私の専攻は高分子材料で生命科学分野の方と関わる機会は滅多にないため、何を聞いても興味深い新鮮な話ばかりで好奇心が刺激され続けた1週間でした。

主なプログラムは、ノーベル賞受賞者らの講演、ノーベル賞受賞者らとのディスカッション、グループプレゼンテーション、理化学研究所見学、日本文化体験でした。特に、ディスカッションではノーベル賞受賞者1名と参加者15名で90分、何でも質問することができました。こんな贅沢な経験はなかなかできるものではないと思います。研究内容についての具体的な質問だけでなく「成功の秘訣は」「ポストク先のポストうまくやっていくには」「モチベーションを保つには」など、参加者から様々な質問が飛出し、それに対して真摯かつ熱い回答が返ってきました。

今回のミーティングに参加してみて、ガンの治療法を開発する、魚用ワクチンの効果を高めて発展途上国での生産高を向上させたいなど、研究において「命に関わっている」という意識を有する参加者が多かったことが印象的でした。高分子材料分野では直接的に命に関わることが少ないため、患者さんたちの命を救いたい、命のために、という彼らの熱意は新鮮であると同時に自分もこれだけの熱意や逼迫した思いで研究できているのだろうかと感じずにはいられませんでした。また、アジア圏からの参加者の中には既婚者や子持ちの学生も多く、彼らから「国を代表している」と同時に「家族を養う」という責任感をひしひしと感じました。また、経済的に苦しい中、奨学金のために母国を離れ研究している、という学生もいました。彼らに負けない強い気持ちや責任感を持って研究を進めていきたいと、改めて思いました。

他国の研究者と交流を図るチャンスも数多く用意されており、研究費の獲得やキャリア形成といった居酒屋での真剣な議論や、夕食を食べながらの結婚生活やプロポーズ方法のレクチャーを通して公私共

に交流を深めることができました。また、自由時間に一緒にラーメンを食べに行ったり新宿を案内したりするなど、日本人参加者として他国からの参加者に日本を楽しんで貰えるよう心掛けました。今回生まれた国内・国外の研究者の繋がりが Facebook 等インターネットの存在によりどんどん広がっていくことを考えると、未来への好影響は計り知れない、非常に有意義な機会であると感じました。将来、各国の研究をリードしていく彼らに日本を理解してもらったり日本を好きになってもらったりすることで、産官学の交流が促進されることを願っています。

最後になりましたが、今回の参加をサポートして頂きました、国際部留学生交流課および国際事業課の皆様、日本学術振興会そして研究室の皆様に感謝致します。そして、博士課程学生の方は、ぜひ応募を検討されてみてはいかがでしょうか。刺激的な1週間が待っています！

#### ・写真



文化体験での着物体験班の集合写真



最終日に台湾・マレーシア・インドの学生とともに居酒屋で



最終日の記念撮影



グループプレゼンテーション発表前夜に遅くまでリハーサルを行う様子



グループプレゼンテーションをやり終えて記念撮影



Ciechanover 教授(2004年ノーベル化学賞)  
とディスカッション後に雑談する様子